



阪神淡路大震災一七周年集会報告

# 被災地福島とつながり 原発をとめる！

一月一五日新

報告され、「現地に身を



た。栗原富夫さん

断政策という状況下での闘いという現在直面している課題について述べられました。

宗治郎さん（兵庫県被災者連絡会）より借り上げ住宅をめぐる闘いの報告、続いて東口博さん（同和住宅値上げ反対全国連絡会）より西宮・芦原地区の改良住宅追い出し裁判の報告がありました。被災者への補償として、また部落差別をなくす目的で建てられた住宅であるはずながら、生きる上で欠かせないそのでの居住の権利を再び剥奪することのような問題が厳然としてあることを知りました。

長田勤労市民センターにて、「東日本大震災が私たちに問うもの―生きる権利を求めて」と題して、被災地反失業総行動参加団体連絡会の主催による震災一七周年集会在開かれました。

運ぶことは容易でないが関西に住む私たちにできることがある、それは共に原発に抗議することである」と話されました。

（神戸市議会議員）、寺下眞治さん（部落解放同盟全国連合会）、常澤透さん（全日建連帯労組関西生コン支部）、和田たかおさん（高槻市議会議員）からもそれぞれ連帯挨拶がなされました。

集会の最後に、石田勝啓さん（関西合同労働組合）から「避難・疎開の受入れなどの具体的支援に取り組んでいこう」と

集会は関西合同労組の石川豊子さんの司会で始まり、まず参加者一同で黙祷をしました。長谷川正夫さん（被災地雇用と生活要求者組合）は開会の挨拶で、十二月初旬に福島を訪れた時の状況を

淡路大震災の時の公園での労働相談、また東日本大震災に際しての「NPOみなと」との共同での支援活動について報告されると同時に二十年を超える南労会支部の闘い、維新の会による労働者分

集会のメイン報告として「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」代表の中山聖一さんからお話がありました。（別掲）

その後、平田隆さんによる歌をはさんで、河村

福島を訪れた時の状況を

維新の会による労働者分

その後、平田隆さんによる歌をはさんで、河村

に取り組んでいこう」と

## 子どもたちを 放射能から守る福島ネットワーク代表

### 中手聖一さんのお話

#### 子どもたちを放射能にさらした後悔

東日本大震災における被害は一に地震と ☆ ☆ ☆  
津波、二に原発事故による放射能問題、これは人災だ。お金もうけのためにこんな危険なものを動かし、ついに取り返しのつかない事故をおこした。加えて日本政府による棄民政策という被害がある。自分が生活しているのは福島第一原発から60~70キロのところだが、もう10ヶ月も放射能のことばかりにかかずらわられている。3月15日放射能の雲がやってきた。枝野官房長官は「ただちに影響はない」と繰り返したが、ヨウ素剤配布が必要なこと、妊婦は避難すべきであることが後から分かった。私たちは何も知らされないまま給水の列に、ガソリンスタンドの前に何時間も並んだ。子どもも一緒に並んだ。それが返す返すも後悔される。

#### 150万人が「原発の中」に

情報が無い中、まず始めたのが放射能の測定。軒並み20、30マイクロ s Vの数値が出てきた。県にレポートを出し、全ての学校の調査をお願いした。汚染の実態が分からない中で、学校が始業すれば避難している人も戻らざるを得ない、始業しないで欲しいと申し入れたが、予定通り4月6日に始められた。

県は1600ヶ所の学校や幼稚園・保育所を調査したが集計も評価もしない。数字の羅列で住民には訳が分からなかった。脱原発の活動をしていたグループの人たちは、放射能の危険性を誰よりも知っているがゆえに真っ先に避難をした。自身は、さまざまな事情で地元を離れられなかった人たちと一緒に調査をし、汚染の事実を自分たちで明らかにすることを始めた。76%の学校が汚染管理区域にあり、150万人が原発の中で働いているのと同じ状況におかれていることがわかった。

子どもだけでも30万人いる。県北地区は最も汚染度合が高く、56%が労働者にも許されていない量の被ばくをしている。

提起されました。

団結ガンバローの声を  
あげながら、阪神淡路大  
震災から十七年経った  
今も震災は終わっていな  
いということ、私自身  
の意識の低さを恥じつつ  
噛みしめていました。



スクリーニングを受けて一定以上の数値があると避難所に入れず病院へ行って全身除染をすることになる。しかし国汚が暫定基準とした数値は、それまで全身除染とされていた1万3千cpm以上でも、10万cpmまでは部分除染にするというものだった。

## 子どもが殺される！

基準を国が示したのは7月19日のことで、そこで出てきたのが子ども20ミリシーベルト基準で「校庭も時間制限で十分」というものだった。この時から県民の感情は、「国は早く何とかしろ」という苛立ちから「このままでは子どもが殺される」という危機感・怒りへと変わり、具体的な行動を起こし始めた。

5月1日「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」が250人からスタートし、避難・疎開、除染・測定、知識の普及、防護という四グループでの活動を始めた。「まずは避難すべきだ」という人、「避難の呼びかけは必要ない」という人、「原発についてこれまで何も知らなかった」という人……さまざまな人たちが温度差を超えて集まり行動し始めた。

避難については6月から本格的に呼びかけ、自主避難者への賠償という点では一歩踏み出した。しかし避難できた子どもたちは一割でしかない。現在、国は「警戒区域」という立入禁止区域と、「計画的避難区域」という居住禁止区域からなる強制的な居住禁止区域しか定めていない。これに対して、希望者は避難できる選択的避難区域を国に認めさせる取り組みが必要である。

測定の結果、田んぼの土はセシウムを吸着するため米そのものの汚染度合は現時点では抑えられているが、吸着される一定量があるため来年はさらに汚染米の問題が顕著に出てくると心配される。原発事故に対しては、放射能は山から住宅地に移動してくるため本質的には打つ手がない。除染はとても市民レベルで手がけられる量ではない。防護については野菜を可能な限り安全な土地で作り、また西日本の野菜を子どもを持つ家庭を優先に届けるよう取り組んでいる。

## 山下俊一を使った国の「安全」デマ

一方で国は安全キャンペーンを張り、その先鋒となったのが長崎大学の山下俊一である。彼は被爆二世を名のりながら、チェルノブイリでの放射能の影響について「被害者は6千人の甲状腺がんの人だけだ」と言っている人物だ。福島原発事故については、「100マイクロシーベルトまでは全く心配はない」などと言っておきながら、6月ごろには「100マイクロシーベルトは10マイクロシーベルトの誤りであった」と言い、現在は「100マイクロシーベルト以下は分からない」という全く無責任な発言をしている。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

## 具体的な取り組みを広めてほしい

国の意図的な風化に抗して今おきていること、これから取り組まなければならないことを市民の力で広めてほしい。

中手さんの報告の中で福島ネットワークでの活動について、避難・疎開、除染・測定、知識の普及、防護そのいずれを優先させるかを議論している時間などないのだ、だからすべてを同時に始めたという言葉に、胸を打たれるとともに現地の厳しい状況を改めて思い知らされました。

NPOみなと合同ケアセンター H

# さよなら原発3.11 関西1万人行動 今、行動の時！大惨事を防ぐために 中ノ島へ

◇午前11時～ 特別企画 中之島公会堂大ホール

「原発事故が奪ったもの」長谷川健一さん（飯館村・酪農家）

「原発銀座の若狭から」松下照幸さん（美浜町・どんぐり倶楽部）

◇午後 1時15分～2時45分 《デモ 2時55分～》

☆公会堂大ホール 被災者アピール 福井のメッセージ 関電コース

「かいじゅうげんぼつどん」上映など

☆女神像前エリア フース、音楽予定 御堂筋コース

福島のアピール 福井のアピールなど

☆剣先公園エリア フース、音楽予定 西梅田コース

福島のアピール 福井のメッセージなど

## 映画紹介 “私”を生きる

1月16日「処分は有効」と最高裁の不当な判決を受けた根津公子さん、引きつづき東京地裁で不当判決をうけた元三鷹高校校長の土肥信雄さんが登場します。

◇2月17日(金)まで ◇シアターセブン

淀川区十三本町1-7

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！